



特集

利用者の声を

取り入れた資料整備を

しまだい資料探訪⑦

p.6

新しく収蔵された

二つの出雲国絵図

3図書館合同

企画展示・講演会

p.8

研修報告

p.17

本学教員著作の寄贈

p.8

コラム

p.18

自著紹介
● 山陰研究シリーズ『銀山社会の解明』
● 小林祥泰編『脳卒中データバンク』
● 小林祥泰ほか編『神経疾患最新の治療』

主題別の冊数に
工夫を

書 評

p.10

イベント &
ニュース

p.19

『日本の個人主義』『グラフで9割だまされる』
『彼女の夢みたアフガニスタン』『野ばら』ほか

図書館員のお仕事

p.12

「医局への出張講習会」

情報活用ステップアップ講座

p.14

レポート・論文作成、研究に役立つ
データベースを使いこなそう

後期の学術情報リテラシー講習会

p.16

2009
VOL.10
DECEMBER

特 集

利用者の 声を 取り入れた 資料整備を

図書館は必要な資料が
提供できているか

利用者が必要とする資料を、適切に整備し提供することは、図書館サービスの基本です。蔵書の充実とともに、それが大学のカリキュラムに沿って収集されているか、学生が使いやすい資料が揃っているかという点も重要です。

図書館が提供している資料が、どの程度整備され利用されているかは、統計である程度把握することができます。図書の貸出冊数、電子ジャーナルのダウンロード数などです。これらの数字を伸ばしていくことはもちろんですが、数字が大きくなればそれで十分というわけではありません。数字に表れない資料整備への要望や不満、あるいは諦めなど、容易に把握できない部分もあります。

限られた資料費の中で、より多くの利用者ニーズに応えるためにはどうしたらよいか。図書館では、利用者の声を資料選定に活かしながら、より充実したサービスの提供に取り組んでいます。

学生が「使える」図書を

学生の利用が最も多い資料は図書で、授業や学習で使いやすいものを重点的に購入しています。授業のために読んでほしい本は、おもに教員や研究室単位で推薦してもらい、シラバスに掲載されている図書も、図書館にあれば読めるよう、できる限り揃えています。

これを数年続けていますが、以前よりも入門書的なもの、写真やイラスト、あるいはマンガなどで説明を加えた図書が目立つようになりました。ページ数も比較的少なく、取っ付きやすく、あまり苦勞しなくても読めそうです。大学図書館として揃えておくべき図書というものもありますが、まずは「使える」図書が大事です。「図書館の資料は使える」「これ読んでみよう」と思ってもらえるような本です。

自分の専攻する分野だけにこだわらず、読書の幅を広げてみてください。視野を広げ、広い知識を得ると同時に、新しいヒントや閃きに出会えるかもしれません。

学生による選書は 利用が多い

学生が必要とする図書のリクエストに応えるため、図書館では年間を通して希望を受け付け、本館では毎年、「選書ツアー」など学生自身が選書する企画を行っています。

学生や利用者による選書については賛否両論あるところですが、学生の態度は真摯で、他の利用者を意識しながら選書してくれます。選定された図書は、学生目線のためか概して貸出が多く、他の図書と比較してもよく利用されています。

授業との連携で 学生の利用をふやす

「図書館を利用しましょう」「本を読みましょう」とただ叫んでも、学生はなかなか図書館へ足を運んではくれません。図書館を利用する必要性があり、図書館を利用して何ができるのかを理解してもらうことが重要です。

最も効果的なのは、授業との連携です。海外の大学では、教員の行う授業と図書館利用が密接に結びついており、関連図書を読んでもよくよう指示されたり、必要な文献を探したり、図書館利用が大前提と

学生選書により購入した図書の貸出トッピング 平成21年10月末現在

2004購入	書 名	貸出回数
1	土壌学の基礎／松中照夫著	44
2	民事訴訟法／Wセミナー編	29
3	絵とき水理学／國澤正和ほか共著	28
4	絶対わかる物理化学／齋藤勝裕著	24
5	実践的英語教育の指導法／Jeremy Harmer著	24
6	飛ぶ昆虫、飛ばない昆虫の謎／藤崎憲治ほか編著	18
7	森林保護学／鈴木和夫編著	14
8	犯罪心理学／小西聖子ほか著	13
9	DNA:すべてはここから始まった／ワトソンほか著	13
10	植物遺伝学入門／三上哲夫編著	13
11	乾燥地の自然と緑化／吉川賢ほか編著	14
	合 計	234

2005購入	書 名	貸出回数
1	単位が取れる線形代数ノート／齋藤寛靖著	47
2	単位が取れる微積分ノート／馬場敬之著	45
3	センセイの鞆／川上弘美著	37
4	ミクロ経済学／嶋村紘輝、横山将義著	35
5	卒業／重松清著	31
6	グラン・ヴァカンス／飛浩隆著	29
7	分析化学の基礎／澤田清ほか著	26
8	面白いほどよくわかる聖書のすべて／中見利男著	24
9	象られた力／飛浩隆著	23
10	債券のしくみ／大和証券債券部	22
	合 計	319

なっています。これには教員と図書館のコミュニケーションが重要で、図書館の利用の仕方や文献の探し方を教える学術情報リテラシー講習会を授業の一部として実施したり（オンデマンド講習会）、シラバス掲載図書、推薦図書の整備など、教員と連携しながら利用をふやす努力をしています。



貴重資料コレクションの整備と利用

学生用図書整備の一方で、貴重資料などの特殊コレクションの充実に目をつける必要があります。図書館資料費だけでの購入は限界があり、一昨年度来、法文学部と経費を分担することで、これまで購入できなかった貴重な資料を揃えることができました。また、法文学部で購入した大型資料を図書館に配置し、全学で利用できるようにしていただいています。高額資料については、このように他部局にも呼びかけ、共同で整備し、利用できるしくみ作りが効果的で、図書館はその中心となる役割を担っているかねばならないと考えています。

既存のコレクションを含めたこれらの貴重資料を、より多くの人が調査、研究に気軽に利用できるように取り組みも行っています。前号で紹介したデジタ

ル・アーカイブでは、ネットワーク上での利用が可能です。また、今年度は特に近世の国絵図類を中心に、他館や個人蔵のものを含めて許諾を得た上で、展示のための電子化やレプリカ作成を行うことができました。デジタル撮影や画像処理の技術が進み、本物と見分けがつかないほどの仕上がります。今秋開催した企画展示会で公開し、多くの方々に知ってもらったことができました。



電子ジャーナルと基盤系データベース

電子ジャーナルをはじめとするネットワーク上で提供される学術情報資源の整備は、島根大学が目指す国際的に通用する先駆的な研究を支え、高い教育レベルを維持していくために不可欠なものです。

本学では、外国雑誌の電子ジャーナル化への進展に伴い、主要出版社を中心に平成十三年頃から「学術情報基盤整備計画」を策定し、電子ジャーナル、データベースの整備を行ってきました。この間、大学統合や国立大学の法人化など組織的な変化の中で、毎年価格上昇を続ける電子ジャーナル（外国雑誌）の継続・維持は、財政運営の効率化の中で極めて厳しい状況が続いています。

アンケートの実施

「第四期学術情報基盤整備計画（平成二十二～二十四年度）」の策定にあたり、学内教員を対象としたWebアンケート調査を実施しました。

電子ジャーナルに関する設問では、「現行タイトルを可能な限り維持すべき」との要望、経費負担方法では現行の「全学共通経費8割、学部負担2割」が意見の大勢を占めました。自由記述では、電子ジャーナルやデータベースが研究活動の主要な情報源である医学部、総合理工学部、生物資源科学部などの自然科学系からは、大学規模及び地域格差を解消するため一層の整備・充実への強い要望があり、法文学部、教育学部などの人文・社会科学系からは、図書、雑誌、古文書やコレクション系などのバランスのとれた整備への要望が寄せられました。アンケートの集計結果は、附属図書館ホームページで公開しています。

■ アンケートの概要 ■

○ アンケート対象者

教員及び大学院生

※医学部は附属病院所属の医員及び研修医も含む

○ 期間

平成21年2月12日(木) ～3月5日(木)

○ 回答者数

451名

(うち教員：339名 回答率49.7%)

○ 集計結果

<http://www.lib.shimane-u.ac.jp/0/an/2008/an2008.asp?mode=s>

第四期学術情報 基盤整備計画の概要

アンケートの結果を受け、平成二十年度後半から専門委員会、附属図書館運営委員会等で検討を進め、全学的な協力、負担体制のもと、基本方針により次のタイトルを整備することになりました。

	電子ジャーナル/データベース名称	収録タイトル数	備 考
出版社・アグリゲータ系電子ジャーナル	1 ScienceDirect(Elsevier)	1,800	パッケージE J
	2 Springer LINK	1,200	パッケージE J
	3 Inter-Science(Wiley-Blackwell)	1,083	パッケージE J
	4 Cambridge Online Package	154	パッケージE J
	5 Oxford Online Package	170	パッケージE J
	6 Nature & Research誌	11	パッケージE J
	7 JSTOR : Arts, General Sci.	195	パッケージE J
	8 ProQuest: ARL/ML	2,250	パッケージE J
コア電子ジャーナル	9 ProNAS	1	個別タイトル
	10 Science	1	個別タイトル
	11 Cell	1	個別タイトル
	12 NEJM: New England Journal of Medicine	1	個別タイトル
データベース類	13 全分野データベース (Web of Knowledge)		大規模引用文献DB
	14 リンクリゾルバー (SwetsWise)		検索支援ツール
	15 統合検索 (Search Solver)		学術系検索エンジン

■基本方針

① 学術情報基盤整備にかかる電子ジャーナルは、全学的観点から、本学の複数の専門分野をカバーするパッケージ及び、特に共通性が高く、極めて重要な数タイトルをコア・ジャーナルとして整備する。

② 各専門分野のパッケージ及び個別タイトルは、必要とする学部・学科・講座等の経費で整備する。

③ 電子ジャーナル等の学術資源を効率的に利活用できるデータベース、アクセス・ツール及び文献管理ソフトを整備する。

④ 必要とする情報へのアクセスが容易で分かりやすく、利用者がこれらのサービスを学外からも利用できる環境整備を推進する。

⑤ 学術情報基盤系のタイトルは戦略的に選定し、共通経費、部局経費、間接経費等を工夫して整備を図る。

⑥ 電子ジャーナル契約は、入念な市場調査を行うとともに、コンソーシアム等を活用し経費圧縮に努める。

「第四期学術情報基盤整備計画」は、平成二十一年七月の予算会議で了承され、所要経費については、学術情報基盤整備費として共通経費（8割）、部局経費（2割）を主な財源として整備を行うことになりました。全学で必要とされるタイトルはこれ以外にも多数ありますが、総経費枠の限界もあり現状規模に止まっています。

全国の国立大学法人、研究機関で、電子ジャーナルを中心とする研究・教育基盤の維持・充実は最重要課題です。今後も、選定したタイトルをベースに、契約交渉による価格の抑制や利用状況による見直し、全国の大学が連携してコンソーシアムを形成するな

ど、必要なタイトルが低コストで利用できるよう、新しい契約モデルの創出などが課題となっています。

教員懇談会で語られた 図書館への要望

平成二十年十二月には、図書館の資料整備やサービスについて教員との意見交換を行うため、学部ごとの懇談会を開催しました。電子ジャーナルやデータベース、学生用図書、資料の整備体制や学術情報リポジトリの推進方法などについて、人文・社会系、自然科学系それぞれの立場から、多くの意見、要望が寄せられました。

総合理工学部

平成20年12月12日（金）

参加者：5名

- 電子ジャーナル（E J）の部局負担率が不明確。全額を共通経費にしてほしい。
- E Jのパッケージは融通がきかない。出版元に対して何らかの対策が必要。
- 学生用図書充実のため増額要求してもいいのでは。
- 県・市との連携など、図書館でも戦略的な企画を。
- 学生のモチベーションが上がるような企画を。
- 和雑誌の学会誌・論文集を購入してほしい。
- 学外者が利用しやすくして満足度を上げる。
- 図書館HPのリンクが見つけにくい。
- 館内の飲食コーナーなど、アメニティを充実させることで利用者を呼び込むこともできる。

法文学部

平成20年12月16日(火)

参加者：7名

- 部局購入のデータベースを、全学で利用できるように。
- E J、データベース(DB)について継続を希望。
- E Jだけでなく、書籍の整備も重要。
- 雑誌、新聞は古い資料も利用するので、長期保存が必要。
- 大型予算を、基本図書の整備などで有効に使いたい。
- 部局を超えて共同利用できる資料は、図書館が仲介をしてほしい。
- 貴重資料の整理、公開が遅れている。
- 古文書等を扱える専門職員の配置が必要では。
- 原資料の保存設備やスペースなど、将来的なケアが必要。
- リポジトリへの登録に、図書館の協力をお願いしたい。



教育学部

平成20年

12月11日(木)

参加者：6名



- 使える人文・社会系のデータベースが少ない。
- E J選定の基準がよくわからない。
- 学生用に文庫・新書を充実してほしい。
- 図書館HPを使いやすくしてほしい。
- 学生が本を読まなくなった。指導が難しい。
- 共同利用・長期利用の観点からWeb版DBの導入を希望。
- 貴重資料を館内展示などで公開してほしい。

医学部

平成20年12月22日(月)

参加者：5名

- 最低おさえるべきタイトルのE Jがある。
- シラバス記載の学生図書専用の書架を設けてはどうか。
- 図書館HPを学生が使いやすいものに。
- リポジトリ登録がはかばかしくない。

生物資源科学部

平成20年12月18日(木)

参加者：6名



- E Jを継続してほしい。なくなると困る。
- パッケージには不要なタイトルも多く含まれているのが気になる。
- シラバス図書の整備は今後も継続してほしい。
- 学生はもっと図書館を利用してほしい。
- 高額だが、必要な電子ブックも揃えてほしい。
- 学生の学術情報リテラシー教育をしっかりやってほしい。授業での利活用も可能。
- 『学術情報リテラシーテキスト』を利用した講習会を行うと良い。
- リポジトリ登録は手間がかかるが、利用のメリットがあれば登録したい。

これからの資料整備

各学部へ赴いての教員懇談会は初めての試みでしたが、忌憚のない意見が聞ける貴重な機会となりました。周知不足のため、ご存知ないサービスや図書館への誤解もあるようです。双方向での話し合いは、お互いの理解を深めるうえで有意義なものでした。お忙しい中、アンケートや懇談会へご協力いただき、ありがとうございます。

学生と教員、また教員でも部局によって、それぞれの資料に対する必要度、満足度には温度差がありますが、全学的な見地から、できる限りご希望に添えていけるよう努力して参ります。

今後も図書館に対するご意見、ご要望がありましたら、遠慮なくお知らせください。

第7回

しまだいい資料探訪

新しく収蔵された 二つの出雲国絵図

寛永「出雲十二郡絵図」と
元禄「出雲国絵図」

元島根史学会会長 池 橋 達 雄

近 世を通じて五度、江戸幕府は諸国の国絵図の提出を命じた。年代は幕府収蔵の年次で、慶長九年（一六〇四）、寛永十年（一六三三）、正保二年（一六四五）、元禄十五年（一七〇二）、天保九年（一八三八）である。これらを「幕府撰国絵図」と呼ぶ。

慶 長九年のものは、もとの国絵図は発見されていないが、寛永期（一六二四―四四）に編纂されたとされる「慶長日本図」の部分として伝えられている。寛永十年のものは、この年から派遣された幕府巡見使の命で提出されたもので、写であるが、本学図書館には昭和五十三年（一九七八）に購入収蔵されている。これらの二度の国絵図については厳密な作成基準は示されていないかったようであるが、次の正保二年の場合は、国絵図については縮尺を一里六寸とし、道の重要度を朱線の太さで三等として示し、一里塚（慶長九年から設置）を記し、港湾については利用の便否を述べるなど、交通運輸の正確な情報記載を要求し、国絵図を二部、「郷帳」（郡村名と石高記載）を二部、「城絵図」をセットとして提出させている。正保度の場合には出雲・隠岐は同幅として一枚に描かれている。

そ の後の元禄度・天保度の場合も正保度に示された基準によっている。ただし、天保度の場合には、とくにいわゆる西南の雄藩を中心に提出に抵抗する国（大名）があり、幕府は方針を変更して元禄度のものとの差異を部分図として提出させ、絵図は幕府の手で完成させている。天保九年は幕府巡見使派遣の最後の年であり、国絵図作成をめぐる事情と考え合わせ、幕府権威の低下を感じさせる。

以 上の五度にわたる幕府撰国絵図とは別に、国で作成され国で用いられた国絵図があり、私はこれを「在地国絵図」と呼んでいる。これは、藩や郡村役人が行財政を行うための必要から作成したもので、幕府撰国絵図に「たてまえ」が重んじられているのに対し、在地国絵図には「ほんね」が記されている。以下に実例をあげるが、二種の国絵図は比較検討してみることが必要である。



図① 出雲国十二郡図 寛永13 島根大学附属図書館蔵



図② 出雲国十二郡図 寛永13 島根県立図書館蔵

出 雲国十二郡図」は、出雲市の某家に伝世されてきたが焼失していまは存在しない。しかし、旧『島根県史』（昭和五年刊行完了）編纂のとき写されたものが島根県立図書館に所蔵されており（図②）、これとほぼ同時期に作成されたものが、このたび入手された図①である。ともに松江在住の狩野重右兵衛尉為信の手による。このたびの「出雲国十二郡図」の出現によって、県立図書館所蔵の模写図が正確なものであること、また、同図が二部以上同時に作成されていたことも分かった。

出 雲国十二郡図」は幕府撰国絵図ではないが、これに準ずる公的性格を持つものであると考えられる。というのは、寛永十一年（一六三四）から同十四年まで松江藩主であった京極若狭守忠高は、伯太川と斐伊川に「若狭土手」を築く治水事業を行うが、この事業に用いるため新しく国絵図を作成する必要を感じ、寛永十年に堀尾氏が提出した幕府撰国絵図をはばかって「十二郡図」とし、中海を「天満郡」、宍道湖を「風郡」としたと考えられる。この図を見ると、寛永十三年には伯太川にはすでに若狭土手が建設されて新しい流路が定められ、斐伊川筋では武志村の半分と美談村の半分が若狭土手の建設によって新しい川敷になることが示されているように読みとれる。計画の実現は、翌年の忠高の死によって、次の松平出羽守直政のときであるが。

さ て、本稿で主にとりあげるのは、平成二十一年に島根大学附属図書館が購入収蔵された、寛永十三年（一六三六）の「出雲国十二郡図」（図①）と宝永七年（一七一〇）写の「元禄出雲国絵図」（図③）である。

こ で、万治元年（一六五八）の出雲の郡村入替のことを述べなければならぬ。斐伊川の新しい流路が確定したことを受けて、この年松江藩は榎縫・出雲・神門の郡域を変更し、郡に所属する村々を入れ替えた。同時にこの年、出雲



図④ 元禄出雲国絵図 元禄14 野津隆氏蔵



図⑤ 元禄出雲国絵図 宝永7
島根大学附属図書館蔵



図⑥ 出雲国全図 天保9 広島大学図書館蔵

終りに、私たち学外の研究者の、島根大学に対する謝意を表明させていただく。

(いけはし たつお)

この稿では新収蔵の二枚の国絵図を中心に述べたが、島根大学では、国立公文書館、国立国会図書館、近隣国立大学、島根県立図書館や県内教育委員会などの協力を得て大規模な国絵図展示会の開催、また、地域の貴重書の収集やデジタルアーカイブによる高精細画像の蓄積・提供なども積極的に推進されており、今回の二枚の価値ある国絵図の収集もこのような努力の中で実現されたことである。

十郡を北四郡、南四郡、神門飯石二郡に分け、それぞれに郡奉行を任命して新しい地方行政制度を整備した。

この新しい郡村区画は、推定貞享三年（一六八六）作成の「出雲十郡絵図」（図③）に示されている。

この絵図は本来飯石郡の某家に伝世されていたもので、図中に嘉永三年（一八五〇）と記されているが、これは写の年次で、神門高瀬川・差海川についての描き方から、私は作成年を貞享三年と推定する。しかし、幕府撰の元禄度と天保度の国絵図には、この万治元年の郡村入替がまったく無視されている。正保度国絵図の「たてまえ」が重んじられたのであろうか。今後の検討が必要である。



図③ 出雲十郡絵図 貞享3年（推定）
島根県立図書館蔵

野津家に伝えられていることが判明したのは、平成七年（一九九五）のことであった。これは一里三寸の縮尺のもので、松江城のところが郡ごとの村数・石高を記したところに、胡粉で抹消されているが、「松平庄五郎」という字が読みとれる。松江藩では元禄十四年（一七〇一）にときの第三代藩主綱近がこの図を作成し、江戸で一里六寸に拡大清書して幕府に提出したと考えられる。松江藩主は、宝永元年（一七〇四）第4代吉透に代り、翌宝永二年八歳の庄五郎が後嗣となり、正徳二年（一七一二）に元服して正式に第五代藩主松平出羽守宣維となる。「元禄出雲国絵図」（図⑤）には、宝永七年の写であることと松平庄五郎の名が明記されており、改めて野津家蔵の絵図の価値を示すこととなった。二つの国絵図の精細な比較検討が待たれる。

また、昭和四十六年（一九七二）に鹿島研究所出版会から秋岡武次郎編『日本地図集成』が出版され、その九十五ページに「正保出雲国絵図」として掲載されている絵図は、元東亜大学の川村博忠氏のご指摘で、「元禄出雲国絵図」であることが判明した。

江藩は、寛文四年（一六六四）の「寛文印知」で「表高」十八万六千石と決められ、これが近世を通じて藩の格式となっている。ところが、国絵図や郷帳が記す「実高」はこれに比べてかなり多い石高となっている。国絵図の記載をみると、正保度二十五万石余、元禄度二十八万石余、天保度三十万石余となっており、ここでも「たてまえ」問題が出てくる。私の推定では「真の実高」はまだ多かったはずである。国絵図が投げかける問題は多い。

松江藩は、寛文四年（一六六四）の「寛文印知」で「表高」十八万六千石と決められ、これが近世を通じて藩の格式となっている。ところが、国絵図や郷帳が記す「実高」はこれに比べてかなり多い石高となっている。国絵図の記載をみると、正保度二十五万石余、元禄度二十八万石余、天保度三十万石余となっており、ここでも「たてまえ」問題が出てくる。私の推定では「真の実高」はまだ多かったはずである。国絵図が投げかける問題は多い。

3図書館 合同企画 展示・ 講演会

江戸を旅する

明治に学ぶ

— 山陰の歴史、経済、教育・文化 —



平成十九年度から、3館（松江市立図書館、島根県立図書館、島根大学附属図書館）合同による企画展示、講演会を開催しています。

平成二十一年度は、「江戸を旅する、明治に学ぶ」をテーマに、島根大学附属図書館を会場として開催しました。各館が所蔵する江戸・明治期の原史料のほか、全国に散在する島根地域の国絵図レプリカ、デジタル画像、パネル展示や講演等を通じて、江戸時代から明治時代前半までの、山陰地域のエネルギーな歴史、経済、教育・文化活動に焦点を当てました。特に国絵図は、島根地域（出雲・石見・隠岐）各時代の幕府撰絵図や在地国絵図など三十数点を一同に集め、時代的遷移や比較検証など、大規模かつ独創的な展示としました。

講演会では、国絵図解説のほか、江戸期の交通網を生かした流通経済活動や、幕末・明治期の教育制度の薫陶を受けて育った先覚者達の業績、また、地域の法制度事情など興味深い事例が紹介されました。

自 著 紹 介

銀山社会の解明

— 近世石見銀山の経営と社会 —

仲野義文著 清文堂出版 2009・3

戦乱の世の戦争の遂行は、兵糧調達のための銀があつてはじめて可能となった。外国産の高価格商品（火薬原料、高級絹織物など）の貿易には高額貨幣である銀が不可欠であった。こうして日本産の銀および銅は、中世・近世を通じて国内だけでなく国際社会に強い影響を与えることになったのだが、その先鞭を付けたのが石見銀山である。

本書は石見銀山が江戸時代どのような技術・経営・政策・住民によって営まれていたのか

を一次資料によって明らかにする。石見銀山の産銀量は江戸時代にしだいに減少していくが、それは単に資源枯渇によるだけでなく、

銀山経営を支える政治や経済が複雑に絡み合っていたことが解明される。本書は、二〇〇七年「石見銀山遺跡とその文化的景観」の世界遺産指定を支えた研究の一端であり、石見銀山を生かしてきた社会、江戸時代社会の発展と崩壊を理解するのに役立つだろう。

なお、本書は、山陰研究センターのプロジエクトに参加された石見銀山資料館館長仲野さんによって書かれ、同センターの山陰研究シリーズのNo.3として刊行されたものである。

（法文学部山陰研究センター企画室長

教授 廣嶋清志 ひろしま きよじ）

【本館・2階郷土資料室 291.71/SA63-1/3】

脳卒中データバンク2009

小林祥泰編 中山書店 2009・2



脳卒中データバンクは、日本で初めて標準データベースを用いて全国173施設が急性期脳卒中登録を行っているものです。1999～200

01年に厚生省科研費で標準データベースを開発し、2002年から日本脳卒中協会で運用しています。日頃は病院のデータベースとして活用して貰い、後で集計しています。

今回が3回目のデータブック出版になります。

解析対象数は2003年が8000例、2005年が16000例でしたが今回は46776例という多数例を集計することが出来ました。臨床現場での印象が数字に現れるのも一つのエビデンスです。

脳卒中は欧米とはかなり異なっています。日本人の脳卒中の詳細な実態を知るとは診断、治療に必要です。前向き調査ではありませんが大規模データでしか出来ない、多方面からの解析なので日本の脳卒中の現状を知る上では極めて有効なものと思われまふ。日本唯一の脳卒中データブックとして活用して貰えればと思います。

（医学部附属病院長

小林祥泰 こばやし しょうたい）

【分館・2階図書 WL355/KOB】

企画展示

期間 平成21年10月3日(土)～11日(日)

会場 島根大学附属図書館3階会議室

講演会

期日 平成21年10月4日(日) 午後1時30分～5時

会場 島根大学ホール

● 出雲・石見・隠岐の国絵図をめぐる

(元島根史学会会長 池橋達雄)

● うなぎ街道を行く

(松江市史編纂委員 乾隆明)

● 江戸から明治へ…近代法の成立と松江

(法文学部教授 居石正和)

● 二葉亭四迷の松江…「学校」の誕生

(法文学部教授 武田信明)

連携企画

「大学ミュージアムを歩く」

大学ミュージアムと連携・協力して開催しました。

今回の展示・講演会は、島根大学ホームカミングデー(開学六〇周年記念大会)や松江開府四〇〇年祭記念とも協賛して開催しました。期間を通じて四〇〇名を超える入場者があり、貴重な地域の歴史資料や文化事情などを紹介する、またとない機会となりました。



展示会場



講演会

本学教員著作寄贈一覧(平成20年9月～平成21年7月)

芦田 耕一(法文学部)	類題八雲集: 翻刻・解説と作者索引
遠藤 昇三(法文学部)	「戦後労働法学」の理論転換
大日方克己(法文学部)	松江藩の時代
小林 准士(法文学部)	松江藩の時代
渋谷 聡(法文学部)	空間と移動の社会史
船杉 力修(法文学部)	景観形成の歴史地理学: 関東縁辺の地域特性
増本 康平(法文学部)	エピソード記憶と行為の認知神経心理学
山崎 亮(法文学部)	Donner, Recevoir un Organe
要木 純一(法文学部)	影印 松江竹枝
渡部 知美(法文学部)	アメリカ文学における階級
山陰研究センター	銀山社会の解明
作野 広和(教育学部)	松江藩の時代
富澤 芳亜(教育学部)	近代中国社会環境と企業発展 戦前期華北実態調査の目録と解題
木下 芳一(医学部)	これならわかるパレット食道
小林 祥泰(病院長)	神経疾患最新の治療 脳卒中データバンク
松尾 寿(名誉教授)	松江藩の時代
市川 博彬(名誉教授)	若きマーク・トウェイン“生の声”から再考
相良 英輔(名誉教授)	松江藩鉄師頭取田辺家の研究 田儀櫻井家たたら史料と文書目録
渡邊 貞幸(名誉教授)	倭国大乱と日本海 島根大学三十一年(みそひととせ)のしたみ酒
高安 克巳(名誉教授)	綴衣帳: 「林住期」への道行きにあたって

神経疾患最新の治療2009-2011

小林祥泰、水澤英洋編 南江堂 2009・2



本書は、『今日の治療指針』の神経疾患よりも広い範囲の神経疾患を取り上げ、かつ、common diseaseだけでなく、神経疾患治療のトピックスも加えています。図表も多用して詳細かつ分かりやすく、疾患の概要、病態、診断と検査を述べた後に、薬剤治療だけでなくあらゆる治療法について詳細に解説しています。神経疾患を実際に治療しようとする医師や、これから学ぼうとい

う医師、学生に最適な解説書です。

例えば、巻頭トピックスでは脳血管内治療の最先端、TICA血栓溶解療法、脳深部刺激療法などすでに行われている最新治療から、アルツハイマー病の先端治療、神経疾患の再生医療、パーキンソン病の遺伝子治療など、実現性の高い治療法の現状まで分かりやすく解説されています。また、初版の2006～2008とは内容を一新し、担当著者もすべて入れ替えています。その点からも、アップデートされた最新知識を仕入れるのに最適な本です。

(医学部附属病院長)

小林祥泰 こばやし しゅうたい)

【分館・2階図書 WL140/KOB】



小田中直樹著

『日本の個人主義』

(ちくま新書) 筑摩書房 2006・6

教育学部・共生社会教育講座

教授 榎原 茂



この文章が印刷される頃、日本の政治は少なくとも表向きには大きく変わりつつあるはずだ。これまでに、各党の政策を吟味して投票した人も多かったのではなかろうか。

本書は、敗戦後に「戦後啓蒙」の論陣を張った丸山眞男や大塚久雄、特に後者によって、なぜ「民主革命を担うべき自律した個人」の出現が期待されたのかをあらためて問い直し、彼らの問題意識が半世紀あまり後の日本社会の直面する課題と無縁であるところか、むしろ新たに現実味を帯びるようになったと説く。その理由として、構造改革、教育改革により「自助努力・自己責任」や「自ら学び自ら考える力」、つまりは自律した個人の育成が強く要請されるようになったこと、一九八〇年代以降、わが国の人文社会科学に多大な影響をあたえたポスト近代主義の思想が批判の対象となり、新たに個人の「主体性」や「自律」の可能性を裏づける理論が登場したことが挙げられている。硬めのテーマながら、明快な文章で小気味よく論が展開されており、理論が苦手な私のような読者でも、論旨のミニマムは押さえられる。章ごとの読書案内によって、普段の不勉強を痛感させられる仕掛けもある。小田中氏とともに、「自律し

た個人」という見果てぬ夢を追い続けるのも悪くない、と思うのである。

(まきはら しげる)

【本館・1階文庫・新書 081.6/C44-1/6021】

ニコラス・ストレンジ著

『グラフで9割だまされる』

「情報リテラシーを鍛える84のプレゼン」

原題 Smoke and Mirrors: How to Bend Facts and Figures to Your Advantage

ランダムハウス講談社 2008・8

医学部・放射線科

講師(学内) 和田昭彦



研究結果や説明資料を作成するとき、自分の意見やメッセージを相手に効果的に伝える手段として図表(グラフ・チャート)は非常に有効である。

図表は、自分のメッセージ(意見・結果)を相手にわかりやすく伝える手段であるが、使い方によっては、自分に都合のいい結果だけ伝える、あるいは不都合な結果を隠す手段ともなりうる。本の

書では、実際の新聞記事や出版物、ネット上のコンテンツを題材として、些細な事柄が誇張して表現されていたり、不都合な事実がごまかされている数々の事例と、そのテクニックが取り上げられている。なかでも「図表のまずさが引き起こした大惨劇」として取り上げられた「二度のスペースシャトル事故(チャレンジャー号、コロンビア号)」の事例はとくに印象的である。

本書を読み進むと、我々が普段いかに図表を盲信しているかを思い知らされるが、同時に「だまし」のテクニックを理解することで、図表の中の情報を読み解く能力、「情報リテラシー」(情報を自己の目的に適合するように使用できる能力)が少しずつ高まっていることも自覚できるようになる。本書は図表を正しく読み解き、また相手を納得させる効果的な図表作りを行う能力、「図表リテラシー」を養うテキストとしても役立つと思われる。

(わだ あきひこ)

【分館・2階図書 350/STR1】

宇宙船地球号 山本敏晴先生の本

医学部・医学科4年 土井遥加

1 『彼女の夢みたアフガニスタン』

マガジンハウス 2004・3

本書は、著者が海外医療救援の最前線で活躍する医師として、アフガニスタンに派遣されたときに撮影された写真で構成されている。写真とともに語られる、難民の少女が妹を失いながらも医師を目指すストーリーが、切々とした感動を呼ぶ。



戦争によってあらゆるものが踏みじられ、なおそこから希望の芽を育てようとする人々。彼らを見守る著者のまなざし。この本は、アフガニスタンの女性たちが見る夢であり、また著者の抱く夢が描かれた素晴らしい本である。

2 『世界と恋するおしごと・』

国際協力のトビラ

小学館 2006・6

医師である著者は、発展途上国で医療援助を続け、NPO法人「宇宙船地球号」を創設。40カ国以上でプロジェクトを実施してきた。その経験を生かして、シニア海外ボランティア、ユニセフ、NGOなどで世界の人々を助ける活動に就く、20代から60代までの人々にインタビューを行った。本書に掲載されている人たちの生き方はとても魅力的で面白く、自分の人生に対して奮起させてくれる。国際協力に興味のある人には、ぜひ読んでもらいたい一冊！

【分館・2階図書 333/YAM】

3 『地球温暖化、しずみゆく楽園ツバル』

— あなたのたいせつなものはなんですか？ —

小学館 2008・1

地球温暖化による海面上昇で最初に沈む国——。そう言われる南太平洋の小島ツバルをテーマにした写真絵本。ツバルの子どもたちの大切なものの絵を通して、青い海と輝く太陽の楽園ツバルの置かれた現状が語られる。ページをめくるたびに、

ツバルに住む子供の陽気な笑い声や、その風景の音が聞こえてくる。そんな魅力のある本書は、環境問題を考えるきっかけとなる一冊。短時間で読むことができるので、忙しい人にもお勧めです！

(つづ はるか)

【分館・2階図書 302/YAM】

※ 山本敏晴氏の著書は、この他に『国際協力師になるために』『アフガニスタンに住む彼女からあなたへ』『世界で一番のちの短い国』を所蔵しています。

小川未明著

『野ばら』

(新潮文庫「小川未明童話集」所収) 新潮社 1951・11

医学部・医学科4年 柊津静花



『赤いろうそくと人魚』、このタイトルを聞いたことがある方は多いのではないかと思います。私の場合、小学校高学年の時の推薦図書の一冊だった当時、この本を読んだ私は、衝撃を受けた。アンデルセンの童話『人魚姫』は明るくきれいなイメージだが、小川未明の手では、妖しく美しく恐ろしく、そして悲しく描かれている。正確には人魚が恐ろしいのではない。人間の「欲望」によって、物語は悲しく恐ろしいものになっていくのである。

小川未明の童話は言葉が少ない。余計な説明は一切なく、優しい口調で、つらつらと言葉が流れてくる。まさに「小川」のせせらぎのようなのである。だから読者は立ち止まり、自分だけの景色を浮かべることができる。

ここでは、『小川未明童話集』の中の私の一番のお気に入り、『野ばら』を紹介したい。ある二つの国の国境での物語である。国境は人の住まない寂しい山で、大きな国からは歳をとった少佐が、小さな国からは若い兵隊が派遣されていた。二人が毎日立つ場所のちょうど真ん中、つまり国境に、

野ばらが一株咲いていた。二人はいつの間にか仲がよくなり穏やかに暮らす。突然両国間に戦争がおきて、若い兵隊は国に呼び戻される。少佐は一人、戦争がどうなっているかの連絡も無いまま、国境の番を続ける。ある日、旅人が通り、小さな国は戦争に負けたと教えてくれる。青年がどうなったかと考えながらうたた寝をすると、夢の中で軍隊がやってくる。指揮しているのはあの青年である。軍隊は静粛で声一つたてない。青年は国境までくると、少佐に黙礼をして野ばらの香りをかぐ。少佐が何か言おうとすると夢が覚める。その年、秋が来ると野ばらは枯れ、少佐は国に帰って行く。

物語を読み終えると、私の中に野ばらの優しい面影だけが、なぜか鮮明に残った。野ばらは一株のはずなのに、たくさん咲き乱れているような印象を与える。国境はなくなった。野ばらもなくなった。青年も……。もう国境を守る必要もない。もう青年に会うこともない。故郷の家族に会いたくて寂しくなることもない。少佐はいつた何をしたのだらう、何を言おうとしたのだらう。きっと、何か言いたかったのに、何も言えなかったのだと思う。伝えるのに言葉では足りないことがある。言葉は万能ではない。心は、表現できないことの方が多い。

『野ばら』は、それがまるで特別なことではなく、ある老人の日常を記録しているような雰囲気。書かれている。だからこそ、そこから読者が想像することは膨大である。読者によって、これは全く違う物語になるのではないかと思います。

忙しい人こそ、時には立ち止まって、小川未明のせせらぎを聞いてみてほしいと思う。

(せつ づか)

【本館・1階書庫文庫・新書 081/SH61/259】

図書館員のお仕事



「医局への出張講習会」

— 医学分館「学術情報リテラシー教育」の歴史を紐解く? —

医学分館サービス担当 葛原克子

1「医局への出張講習会」までの長い道のり

この記事を書くに当たり、大袈裟ですが在職三十二年間（島根医科大学附属図書館→島根大学附属図書館医学分館）での「学術情報リテラシー教育」の歴史を振り返ることになりました。何が出て来るのでしょうか・・・お付き合いください。

図書館業務は、資料を受け入れ整理し、管理する部門と、それらの資料を利用者の皆さんに提供し、サービスする部門（カウンター業務）に大きく分けられます。どちらの業務も、利用者へのサービスが基本であることは言うまでもありません。中でもカウンター業務は、利用者の皆さんからの反応が直接見えます。叱られたり、苦情も来ますが、満足してもらえて笑顔が返って来ると、喜びもひとしおです。もっと利用者の皆さんの役に立つサービスを考えたいです。そして、あれこれと考えたことを、一つずつ実行していくことが、**図書館員のお仕事**なのだと思います。

2「学術情報リテラシー教育」事始

一九六〇年代には、日本の医学図書館でも既に医学生への文献検索指導が実践されていた（①）が、一九七〇年代になると、「利用者教育」（利用者を図書館の資料、施設に導くオリエンテーションと、資料に関する詳しい情報を提供する**文献利用指導**とで表される）について、活発に論ぜられるようになっていました。（②、③）

その頃には図書館の資料、設備にも変化が現れていました。医学系の代表的な二次資料である**Index Medicus**の編集と検索を、コンピューターで行なうシステム**Medas**が開発され、当館でも昭和五十四年（一九七九）、電話回線を使った**NOIS**によるオンライン文献情報検索サービスが、また昭和五十九年（一九八四）には、**DIALOG**によるオンライン文献情報検索サービスが開始されました。

これらの利用指導の必要性が高まり、当館の「学術情報リテラシー教育」も一気に進んで行きました。最初の「医学文献利用法」研修会の報告が、図書館ニュース十四号（一九八〇）に掲載されています。講師は、当時の島根医科大学附属図書館長、森忠三教授（小児科学）と、英語の外国人教師マーハ氏で、上手な文献利用法、医学論文の書き方、オンライン文献検索実演という内容でした。

昭和五十七年度（一九八二）から図書館員が講師となり、学部四、五年生（開学五年目のため）と大学院生を対象に「図書館・文献利用のオリエンテーション」を始めました。これは翌年から教職員も含め、年に二回程度実施していました。

昭和六十年（一九八五）からは、ガイダンス「医学文献の探し方」として、「文献利用指導」に重点を置き、毎月一回、資料を替えて実施しました。この頃からガイダンスの効果が現れたのか、学生の学術雑誌利用が増えました。

これらの成果は、当館職員により発表されました。（④）私も先輩の後を追いつつながら、資料や説明の方法を勉強したものです。

平成十年頃から、京都大学で実施され、講義録も出版された全学共通科目「情報探索入門」などのように、全国的に大学図書館が授業に参画する機運が高まっていました。当館も平成十二年（二〇〇〇）六月に、看護学科二年生の授業科目「看護研究の基礎」に初めて参画しました。この授業では二コマを担当し、現在に至っています。また、医学科三年生の「講座等配属」では、毎年講座からの依頼により、各講座単位で学生に文献データベース、電子ジャーナル等の利用指導を実施しています。

3「医局への出張講習会」…ついに開始

図書館の「学術情報リテラシー教育」は学生だけが対象ではありません。医療の現場では、特に最新の情報が必要とされ、文献データベース、電子ジャーナル等を使いこなす必要があります。

図書館では、講座・診療科の医師、看護部、薬剤部等の職員を対象に、種々の文献利用講習会を開催していましたが、医師の方から、診療、手術等の都合で、なかなか参加できないとの声が寄せられていました。

そこで、あれこれと考え…

参加してもらえらる講習会を開くには？

参加できる講習会を開くべし…

と云うことで

医局への出張講習会をすることになりました。「希望の日時に希望の場所」をキャッチフレーズに、平成十二年（二〇〇〇）七月、各講座に「医局への出張講習会」の案内を出しました。

最初の講習会は、平成十二年七月四日の十七時

三〇分から一時間、泌尿器科学講座でした。普段は入ることのない講座の医局で、教授以下白衣のお医者さんを前に説明することは、かなり緊張するものでした。

忙しい先生方が、少しでも効率よく文献を手に入られるよう、図書館ホームページから、OPACの利用法、文献データベース検索法 (Medline)、文献複写依頼の方法についての内容で説明しました。文献検索の実演では、スクリーンへのパソコン画面投影で行いました。医局にはパソコン、スクリーンの設備が整っていて助かりました。

医学の知識不足で、お叱りを受けるのではないかとヒヤヒヤしながら説明し、講習会が終わった時はグッタリしたものでした。この年には三講座 (三十一名) へ出張しました。



平成十三年度 (二〇〇一) には六講座へ出張し、延べ七十一名の参加がありました。実施時間は一時間と変わりますが、説明するデータベースは、Medlineのほかに医中誌、EBMRを追加し、電子ジャーナルも加えましたので、内容はかなり盛り沢山になりました。

講座から申し込みがあると、その講座の発表論文から研究テーマを調べたりして、できるだけ希望に沿った内容で説明できるように準備をしました。こ

の準備が重要ですが、数をこなすことで少しずつ慣れ、説明資料の作成や時間配分などがうまくできるようになっていきました。参加者からは、図書館のサービス、データベースの使い方など、良くわかったとの声をいただきました。しかし、その後、医局への出張講習会は、残念ながら休止状態となってしまいました。

4「医局への出張講習会」…復活篇

平成二十一年 (二〇〇九) 三月、医学部の教授から電話で所蔵雑誌について質問があり、関連して電子ジャーナル、文献データベースについて説明をしたところ、新年度になって、医局員にも説明をして欲しいとの依頼がありました。一つの講座だけではもったいない。図書館でサービスしている電子ジャーナルや文献データベースについて、医学部の先生に知っていただける良い機会だと、久しく休んでいた医局への出張講習会を復活することになりました。四月に、医学部の全教員へ医局への出張講習会の案内メールを出し、図書館ホームページでもお知らせしました。
(<http://www.lib.sh.inane-u.ac.jp>)

四月から六月末までに六講座へ出かけ、延べ七十八名の方に参加していただきました。説明資料は図書館員が誰でも使えるようにし、パワーポイントで図書館のサービス概要を説明し、各種データベースや電子ジャーナルの実演をしました。

アンケートでは、以前から導入しているデータベースを、講習会で初めて知ったとの声もありました。図書館で契約しているデータベースや電子ジャーナルはホームページで紹介しているのですが、皆さんに知っていただくには、積極的にPRしていく必要があると痛感しました。

病棟の会議室での講習会では、診療の打合せが長引き、講習会の後にも会議があるため、一時間の予定を二十分短縮の四十分でと言われました。内容は

削りたくないし…、早口で説明し、なんとか時間内に終わることができました。ほっとして片付ける間も無く次の会議が始まりました。医療の現場の忙しさを目の当たりにした経験ですが、電子ジャーナルの拡充を望む声も出て、熱心に聴いていただいたのだと嬉しくなりました。

医局への出張講習会は、授業への参画と同じく、医学分館図書館員の大切なお仕事です。医師、看護師を目指し、勉学に励む学生、厳しい医療の現場で、診療、研究に勤しむ医師、医療職員の方々の役に立つ医学分館であるために、好機を逃さずチャレンジして行きたいと思います。

(くずはら かこ)

- ① 吉本瑞応「医学生に対する文献検索指導」医学図書館 十三巻四号 二七五～二七七、一九六六
- ② 木下順一「医学図書館における館員教育と利用者教育」第五回医学図書館員セミナー論文集二七～三八、一九七九
- ③ 矢道勉「医学図書館における利用者教育」医学図書館 二六巻四号 一二六～一二三、一九七九
- ④ 吉井紀子「医学図書館における利用者教育」第四回図書館情報サービス研究大会一九八七
於・川崎医科大学



情報活用ステップアップ講座

—レポート・論文作成、研究に役立つデータベースを使いこなそう—

Academic Resource Bank



電子リソース(各種データベース)の窓口

まずは、ここにアクセス!

図書館HP

電子リソース

まず、自分の学年や専攻に合ったデータベースをチェックしてみよう。ここでは、今年度から導入したものを中心に、いくつかオススメのデータベースをご紹介します。

レポート作成や卒論執筆はもちろん、ちょっと関心を持ったことを調べるのに便利な、新聞や辞典などのデータベースもあります。せっかく便利で高機能な道具があるのに、インターネットだけで済ませるなんてもったいない!ぜひ在学中に、データベースを使いこなすスキルを身につけてください。

島根大学内では、多くの契約データベースが利用できます。これらのデータベースは、学習や研究活動に必要な文献を効率的に集めるのに欠かせないものです。まさか、使ったことがない・・・なんてことはないですよね!!



《島根大学で利用できる主要なデータベース》

在学中にどれだけ使いこなせるでしょうか?

大 学 院

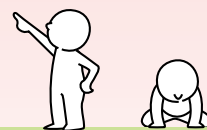
- Web of Science (海外全分野)
- AGRICOLA (農学)
- PsycINFO (心理学)
- MathSciNet (数学)
- MLA (文学・言語学)
- ERIC* (教育学)
- Up To Date (医学・診療)
- etc.

専門性が高まると、外国文献への依存度も高くなるのが一般的です。また、より網羅的で正確な情報収集が求められます。海外の学術雑誌に投稿された最新の論文のチェックも必要です。

学部3年~4年

- CiNii* (国内全分野)
- JDream II (科学全般)
- D1-Law.com (判例・法律)
- ルール電子図書館 (農学情報)
- 大宅壮一文庫 (週刊誌等)
- 医中誌Web, JMEDPlus (国内医学・看護学)
- PubMed*, CINAHL, EBMR, MEDLINE (海外医学・看護学)
- etc.

ゼミでの発表や卒論執筆には、文献集めが必須です。国内文献を手始めに、参考になりそうな文献や先行研究を調査してみましょう。



学部1年~2年

- 図書館OPAC* (島根大学の蔵書)
- Webcat Plus* (全国の大学の蔵書)
- JapanKnowledge+ (百科事典・人名事典など)
- 朝日新聞「聞蔵(きくぞう)」(新聞記事)
- 日経テレコン21 (日経各紙などビジネス情報)
- etc.

まずは、図書館へ足を運びましょう。図書館の本を探してみたり、自分の興味のあることを調べてみましょう。レポート作成に役立つツールもたくさんあります。

*印は無料で、学外からも利用できます。

辞書や事典を一括検索 Japan Knowledge+ (ジャパンナレッジ)

主なコンテンツ

- ・日本大百科全書
- ・日本国語大辞典
- ・日本歴史地名大系
- ・字通
- ・Encyclopedia of Japan
- ・日本人名大辞典
- ・imidas (イミダス)
- ・現代用語の基礎知識
- ・デジタル大辞泉
- ・ランダムハウス英和辞典
- ・プログレッシブ英和中辞典
- ・COBUILD英英辞典
- ・科学技術略語辞典
- ・JK Who's Who
- ・会社四季報 など

『日本大百科全書』『大辞泉』をはじめとし、各種事典・辞書のほか、多様なコンテンツを「串刺し」で一括検索できるのが特徴。専門用語から最新の時事用語にいたるまで、幅広い内容が収録されているので、基礎固めや関連項目のチェックも効率的にできます。二〇〇九年四月からは、『字通』『日本歴史地名大系』も利用できるようになりました。



ウィキペディアをはじめとしたインターネットの情報も確かに手軽で便利ですが、レポートの引用に使うわけにはいきません。正確な情報を簡単に入手できる「ジャパンナレッジ」、ぜひ使ってみてください。

メモの書き込みや付箋もつけられる電子ブック Net Library (ネットライブラリー)



利用できるタイトル

- ・永原慶二著作選集1-10
- ・理工系の数学教室1-5
- ・朝倉物理学大系1-21
- ・応用化学シリーズ1-7
- ・医学統計学シリーズ1-7 etc.

インターネットを使って読む電子ジャーナルは、特に自然科学系の研究において当たり前の時代になりました。一方で、電子ブックというものもあります。本学ではあまり導入が進んでいませんが、この四月から、全集やシリーズものを中心に五十タイトルを整備しました。その他、著作権フリーの電子ブック、三五〇〇タイトルも利用できます。(2009年4月導入)

世相や風俗など、“ナマ”の情報がほしいとき Web OYA-Bunko (大宅壮一文庫)



事のタイトル、執筆者、雑誌名、発行日などで検索することができます。雑誌掲載当時の世相や風俗を知るにはうってつけで、学術雑誌中心の他のデータベースとは一線を画します。(2009年4月導入)

財団法人大宅壮一文庫が所蔵する主要雑誌の記事索引データベースです。雑誌に掲載された様々な事件や出来事、流行(ブーム)、話題の人物が索引化されており、記事のタイトル、執筆者、雑誌名、発行日などで検索することができます。雑誌掲載当時の世相や風俗を知るにはうってつけで、学術雑誌中心の他のデータベースとは一線を画します。(2009年4月導入)

文献情報管理・論文作成支援ツール RefWorks (レフワークス)

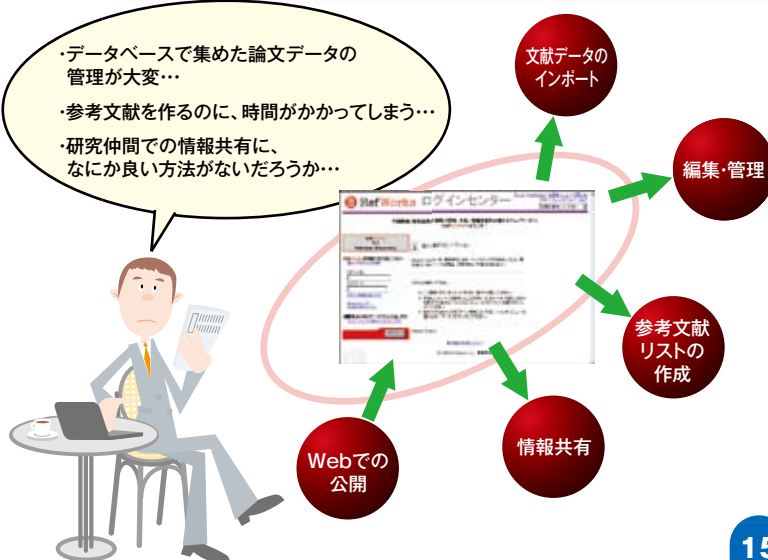
レフワークスは、学術情報・研究成果の収集と管理、共有、情報発信を支援するウェブサービスです。

「こんなことができます」

- ・データベースの検索結果を簡単保存
- ・雑誌投稿の際の参考文献リスト作成
- ・研究成果をWeb上に公開
- ・研究者同士で文献情報の共有化
- ・ゼミに使用する文献リストの共有
- ・などなど、使い方は人それぞれ。

そのうえ、ソフトウェアのインストールが不要で、学外からでもアクセス可能など、非常に便利に使えます。(2009年4月導入)

- ・データベースで集めた論文データの管理が大変...
- ・参考文献を作るのに、時間がかかってしまう...
- ・研究仲間での情報共有に、なかなか良い方法がないだろうか...



後期の学術情報リテラシー講習会

■ 本 館

1 図書館主催講習会

課題研究やレポート作成、本格的な卒業研究の時期となりました。本館の講習会では、学生の皆さんが活用しやすい、基本的なデータベースを取り上げています。

講習会では初歩的な内容からやさしく解説し、検索実習により基本がマスターできます。これまでデータベース検索をしたことがない、検索方法を知りたい、検索がうまくいかない、どのデータベースを選んだらいいか迷うなど、様々な段階に対応できます。検索の結果、自分のテーマ・視点に合った論文やデータが見つければ、大きな進歩です。内容やライティングは一挙に進むはずで。

2 オンデマンド講習会

図書館が開く講習会とは別に、オンデマンド講習会も受け付けています。授業やゼミの時間を指定して行なうものです。数名の学生さんで申し込むこともできます。いずれの講習会も、図書館一階の情報メディアルーム

で行ないます。お申し込み、お問い合わせはカウンターへどうぞ。
(学術情報担当)

本館 図書館主催講習会

時間はいずれも14:30~15:30

講習会名	日程
初級 図書館利用と本の探し方	10月14日(水) 11月6日(金)
初級 日本語雑誌論文を探す —CiNiiをやさしくマスター—	10月21日(水) 10月30日(金)
初級 基本用語と関連サイト調査 —辞書系データベース JapanKnowledgeを使う—	11月4日(水) 11月9日(月)
初級 新聞記事の探し方	11月11日(水) 11月20日(金)
中級 自然科学の雑誌論文を探す —JDreamIIで英文も検索する—	10月23日(金) 11月25日(水)
中級 参考文献の管理 —Refworks入門—	11月13日(金) 11月18日(水)

■ 医学分館

医学分館の学術情報リテラシー教育は、ますます多様化し進化を遂げています。医学科、看護学科の授業の中での学術情報リテラシー教育、図書館企画の講習会、そして今年度からは、文献検索週間と出張講習会を始めました。日々の学習、研究活動になくはならない学術情報リテラシー教育に、全力で取り組んでいます。お申し込み、お問い合わせは、**医学分館サービス担当**（内線284）へどうぞ。

1 医学科3年生講座等配属時の文献検索講習会

特別系授業「講座等配属」において実施しています。医学科学生はここで始めて、OPAC、電子ジャーナル、医中誌Web、PubMed、電子ジャーナル等について学びます。説明と演習を実施しています。

各回九〇分のコースで、今年度も九月二十八日から開始しています。

2 出張講習会

診療時間などの都合で図書館での講習会に参加できないとの声を受けて、今年度より、図書館職員が医局に向いて説明会を開催する「出張講習会」を始めました。図書館で利用できる各種データベースはもちろ

ん、電子ジャーナル、その他文献管理ツールなど内容は多岐にわたります。先生方の研究、診療にお役に立てるものと思います。医局単位でお申込ください。

3 文献検索週間

今年度より毎月第3週を「文献検索週間」とし、一週間通して、文献データベースの利用説明および実習を開催しています。データベースの操作方法だけでなく、キーワードの選び方、文献の入手方法などの説明もします。どなたでも参加してください。

医学分館 文献検索週間

実施期間/時間	14:00~15:00	15:30~16:30
10月19日~23日	医中誌Web	PubMed
11月 (3年講座配属のため中止)		
12月14日~18日	PubMed	医中誌Web
1月18日~22日	医中誌Web	PubMed
2月15日~19日	PubMed	医中誌Web

研修報告

第49回 中国四国地区

大学図書館研究集会

平成20年10月23日～24日 山口大学

資料利用担当 園山典子

「島根大学附属図書館における蔵書のトータルマネジメント～学生用図書を中心として～」をテーマにした研究発表を行いました。

本館では、それぞれの担当で狭隘化の解消に取り組んでいますが、それを蔵書のライフサイクル管理からトータルマネジメントへ向けての実践として取り組むことにしました。そして、蔵書のライフサイクル管理を、へ入口（上流）へ出口（下流）という流れで捉え、下図のような考えを発表しました。

教員の研究用図書と図書館の重複図書を結びつけた「リユース図書制度」、廃棄図書を生かす「蔵書リユース市」という下流でのしくみが、まず軌道に乗りました。

上流のしくみとしては、平成十八年度から授業料の1%という定率化された予算の中で、学生用図書の体系的な整備を行う基盤ができました。学生による選書は、図書購入リクエストが機能しており、加えて「選書ツアー」という企画も取り入れました。教員による選書は推薦図書制度により行い、またシラバスに掲載された図書を購入しています。

中流では利用率による図書の見直しとして、開架からリユースまたは書庫へ、書庫から開架またはリユースへという移動を行いました。この結果、開架図書の充実、利用者の利便性の向上が図られ、「利用状況に応じた蔵書の適正管理」に一步近づきました。

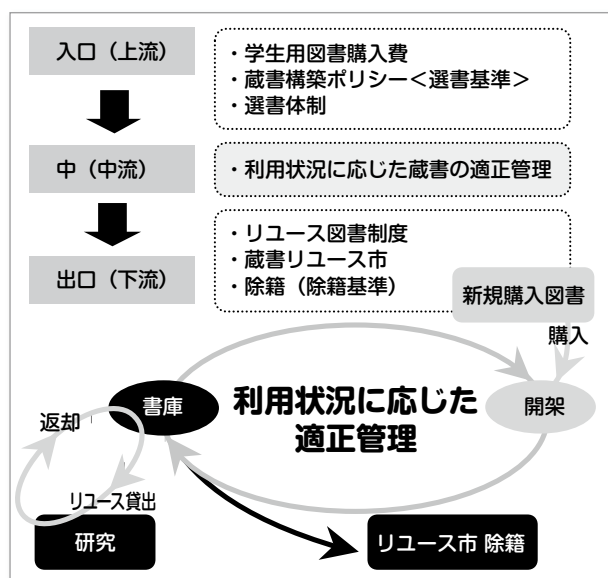
一方で課題として、上流では選書基準の早急な策定、中流では研究室返却図書の返却受付から開架または書

庫への配架にいたるフロー整備の必要性、下流では現行の除籍基準の再検討と確立の必要性が浮かび上がってきました。

ここから、トータルマネジメントの実践に向けてのポイントとして、蔵書のライフサイクル管理の確立、その基盤となる学生用図書の購入予算確保、選書基準と除籍基準を包みこむトータルな蔵書構築ポリシーの確立、適及入力力の推進、貸出回数などの過去のデータの保存ということが考えられます。また地域の図書館との連携の上に立てば、地域全体での蔵書のマネジメントへと発展する可能性を秘めています。

この取り組みは、狭隘化の解消までは程遠いまでも緩衝装置とはなり得ました。捨てることには限界もあり、一日も早い増築が必要です。研究発表は、日々の業務を見つめ直すよい機会となりました。今回得た知識を利用者のみなさんに還元できるよう、頑張りたいと思います。

（そのやま のりこ）



アーカンソー大学研修体験記

学術情報担当（現国際交流課） 金田紀子

今年二月から約三週間、本学の協定校であるアメリカのアーカンソー大学へ行ってきました。主な業務は短期語学研修に参加する学生の引率でしたが、滞在中、大学図書館や近隣の公共図書館を訪問することができました。

アーカンソー大学図書館では、オンラインチュートリアルサービスや、IT業務の流れ、電子ジャーナルの管理方法などについて、各担当者からお話を伺うことができました。特にオンラインチュートリアルで紹介では、まずそのメニューが非常に充実していたことに驚きました。中でも、学生がレポートを作成するにあたって、分野と提出締切日を入力すれば、スタートから完成までの各段階における所要日数や、詳しい解説を参照することができるシステム（Research Paper Wizard）は大変興味深いものでした。また、今回初めてホームステイを経験したのですが、ホストマザーが大学図書館の元職員の方でしたので、彼女が担当していた Special Collection（貴重書コレクション）のいくつかを見せてもらうことができました。

一方、公共図書館（Fayetteville Public Library）は、二〇〇五年に Library of the Year を受賞した図書館で、地元の方も大変誇りに感じています。利用者の利便性だけでなく、環境にも配慮したバランスのとれた設計がなされていたことや、子どもへのサービスが充実している点が印象的でした。

この研修で、私は本当にたくさんの事を学びました。大学スタッフのプロ意識の高さや使命感の強さは、大いに見習うべき点であると思いました。

最後に、この研修に参加するにあたって快く送り出してくださいました図書館の皆様には感謝いたします。

（かねだ のりこ）

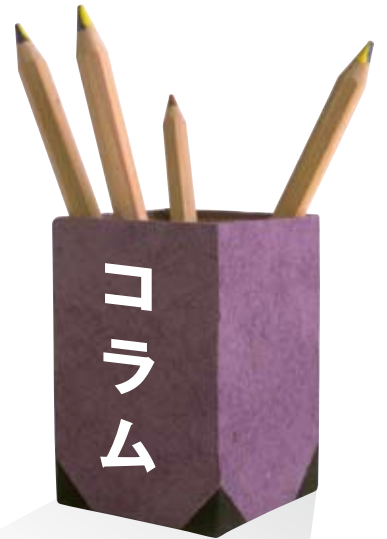


本館開架図書室の受入冊数と貸出冊数(平成20年度)

NDC	分 野	H20受入図書		H20 貸 出	
		冊数	割合	冊数	割合
000	総 記	105	2.9%	837	2.1%
100	哲 学、心 理 学	120	3.3%	1,316	3.4%
	倫 理 学・宗 教	29	0.8%	364	0.9%
200	日 本 史	179	5.0%	1,519	3.9%
	世 界 史	151	4.2%	749	1.9%
	伝 記、地 理・紀 行	55	1.5%	176	0.5%
300	社 会 科 学 総 記	57	1.6%	244	0.6%
	政治(含む国防軍事)	114	3.2%	552	1.4%
	法 律、経 済、財 政	315	8.7%	3,483	8.9%
	教 育	216	6.0%	1,725	4.4%
	統 計、社 会、民 俗 学	241	6.7%	1,806	4.6%
400	自 然 科 学 総 記	72	2.0%	300	0.8%
	数 学	96	2.7%	2,127	5.5%
	物 理 学	60	1.7%	1,553	4.0%
	化 学	41	1.1%	2,105	5.4%
	天 文・地 学	53	1.5%	911	2.3%
	生 物 学	106	2.9%	2,934	7.5%
	医 学・薬 学	56	1.6%	868	2.2%
500	技 術・工 学	54	1.5%	615	1.6%
	土 木、建 築、機 械	87	2.4%	995	2.6%
	電 気、電 子・通 信	43	1.2%	827	2.1%
	コ ン ピ ュ ー タ	83	2.3%	663	1.7%
	海事、金属、化学工学、製造工学	20	0.6%	536	1.4%
	家 政	9	0.2%	119	0.3%
600	産 業 総 記	10	0.3%	52	0.1%
	農 業、林 業、水 産 業	83	2.3%	1,588	4.1%
	商 業、交 通・通 信 業	26	0.7%	169	0.4%
700	芸 術	109	3.0%	1,045	2.7%
	体育・スポーツ、諸芸・娯楽	22	0.6%	189	0.5%
800	語 学 総 記	23	0.6%	209	0.5%
	語学(日本語、中国語)	25	0.7%	430	1.1%
	語学(英米語、その他)	35	1.0%	379	1.0%
900	文 学 総 記	23	0.6%	133	0.3%
	日 本 文 学	157	4.4%	2,871	7.4%
	外 国 文 学	126	3.5%	924	2.4%
***	郷 土 資 料	26	0.7%	806	2.1%
080	文 庫 本・新 書 本	576	16.0%	2,892	7.4%
	合 計	3,603	100.0%	39,011	100.0%

主題別の冊数に工夫を

図書情報課長 野村正人



一年間の受入冊数や貸出冊数について、どの分野がどれだけあるのかを説明する場合に、これまでは主題を一〇に分けることが多かった。しかし、一〇程度の分類では、かたまりが大きすぎて、報告を受ける人が実感しにくいことがある。たとえば、コンピュータ関係や文庫本・新書は〇類に含まれているが、そのことをすぐには理解してもらえない。また自然科学分野と言っても、数学、物理、化学、生物、医学などの冊数を合計してしまっただけでは、どの分野の図書の受入が不十分なのかのチェックができないだろう。

世界史の図書は一五一冊受入れており、受入冊数の四・二パーセントを占めるが、その分野の貸出は全貸出冊数の一・九パーセントにすぎない。それに比べて、数学、物理学、化学、生物学などでは、受入冊数に比べて、貸出冊数の割合が大きい。日本文学にも同じような傾向がある。

もちろん、受入冊数が多ければ、貸出も多いとは言えない。分野による利用形態の違いがあるだろう。自然科学の分野では、図書をまるごと通読せずに一部分の利用で目的が達せられ、そのために貸出冊数が増えるのかもしれない。それに、分野によって出版点数のばらつきがあるだろう。例えば数学の受入冊数九六冊は、日本史などと比べて少ないように思えるかもしれないが、数学の新刊書出版は三九一点(平成二〇年、出版年鑑による)であるので、受入冊数はそれほど少ない数ではない。

この表は単年度であるが、受入冊数、貸出冊数ともに、経年変化を見ることが大切であろう。特定の分野が極端に変化したり、減少傾向が続いていたら、原因を調べる必要がある。主題ごとの冊数を説明するのに、これまでの一〇分類では実態が見えにくいので、工夫の余地があるだろう。

(のむら まさと)

イベント&ニュース

2008(平成20)年10月~2009(平成21)年8月

本 館	3館合同シンポジウム・企画展示会開催	2008.10.25~11.2	島根県立図書館、松江市立図書館、島根大学附属図書館の3館合同企画による「アメリカのラフカディオ」を、松江市立中央図書館を会場に開催しました。講演、パネルディスカッション、ピアノ演奏など充実した内容のシンポジウムには多数の八雲ファンが詰めかけ、熱心な質疑応答が交わされました。
	著者と語る集い開催	2008.10.31	松江市出身で、『記者魂』の著者である佐藤史朗氏(東京新聞編集委員)をお招きして「著者と語る集い」を開催しました。20名の参加があり、第一線で活躍する職業人としての、有意義なお話を聞くことができました。
	中学生職場体験	2008.10.1/11.4	附属中学校の元気な中学生3名が、「総合的な学習の時間」体験活動として図書館を訪れ、閲覧室の掃除や図書の配架、整理を手伝ってくれました。
	ブックフェア2008開催	2008.11.5~11.6	図書館に備える図書を、実際に手に取りながら選書する場を提供するため、書店の協力を得てブックフェアを開催しました。会場にはたくさんの学生さんが立ち寄り、真剣に、また楽しそうに立ち読みする姿で賑わいました。5日の午後には選書ツアーも行いました。
	学推会から図書の寄附	2008.11	島根大学学生生活推進会(学推会)から、学生用図書として84冊の図書を寄附していただきました。
	第4回図書館蔵書リユース市開催	2008.11.21~11.23	本館で不用になった約10,000冊の図書を提供しました。今回は冊数が多かったため、会場準備と片付けは大変な作業でしたが、開催を心待ちにした学生、教員を中心に多数の来場がありました。
	AED設置	2008.11.28	図書館玄関ロビーにAED(自動体外除細動器)が設置され、緊急時の人命救助に対する備えができました。職員も順次、蘇生法の講習を受けています。
	遺跡リポトリ・セミナー開催	2009.2.26	国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業として採択された「遺跡資料リポトリの構築」がスタートしました。本学が代表機関となっており、2月に関係者を集め、岡山大学附属図書館においてセミナーを開催しました。
	島根県大学・高等専門学校図書館協議会職員研修会開催	2009.3.16	本館において「機関リポトリと学術情報リテラシー」のテーマで職員研修会を開催し、13名が参加しました。
	国絵図の購入	2009.3	法文学部のご厚意により、2点の『出雲国絵図』を購入することができました。既蔵の国絵図とあわせて、お宝と呼べるような貴重資料を揃えることができました。
	まちなか大学祭で古本市開催	2009.4.12	学生の企画による「まちなか大学祭」の中で古本市を開催したいとの希望があり、図書館で不用となった図書を提供しました。



たくさんの交流がありました



本館	第57回中国四国地区大学図書館協議会総会・第36回国立大学図書館協会中国四国地区協会総会開催	2009.4.16～4.17	今年度は島根大学が当番館となり、くにびきメッセを会場として開催しました。
	新任教員の図書館ガイダンス開催	2009.5.13	新任教員を対象とした図書館ガイダンスを開催しました。14名の参加があり、学術情報基盤整備計画、図書の購入、データベース・電子ジャーナルの概要、検索講習会、学術情報リポジトリなどについての説明と、館内ツアーを行いました。
	アーカンソー大学研修生図書館を見学	2009.5.28	交流協定校であるアーカンソー大学の研修生が図書館を訪問しました。一行はこれまで小泉八雲ゆかりの地を多数訪問しており、図書館では「八雲文庫」の見学と、先頃開催した「アメリカのラフカディオ」のパネル展示を見てもらいました。
	本館ニュース『LiMe:ライム』創刊	2009.6.19	学生さんを対象に、図書館の旬の情報を届ける月刊ニュースレター『LiMe:ライム』を創刊しました。楽しい話題、ためになる情報を盛り込んでいく予定です。
	学生選書ツアー実施	2009.6.24	2年ぶりの学外選書ツアーとなりました。7名の学生さんの参加があり、短い時間でしたが、思う存分選書を楽しんでもらえました。
	不用雑誌の無料提供会開催	2009.7.8～7.10	3回目の開催となった今回は、保存年限の過ぎたブラウジングの雑誌約700冊を提供し、およそ3分の2を再利用してもらうことができました。

医学分館	第5回島根県病院図書室セミナー開催	2008.12.22	大学図書館、公共図書館も含め、23名の参加者がありました。埼玉県済生会栗橋病院図書室司書の山岸里子さんを講師に招き、1人体制の病院図書室業務を「人の輪」でこなしている貴重な実践報告をしていただきました。さらに、講演後の意見交換、図書館見学等で、参加者の交流の輪が広がりました。
	卒業生からの図書の寄附	2009.3.20	平成20年度医学科・看護学科卒業生から、卒業記念として図書を寄附していただきました。学位授与式の後に行われた祝賀会で、卒業生代表から廣田分館運営委員へ目録が贈呈されました。
	文献検索週間の開催	2009.5～	5月から毎月第3週を「文献検索週間」とし、1週間を通して文献検索データベースの利用説明会を開催しています。自分の都合の良い日を選べるため、参加者には好評です。



『淞雲』では、学生や教職員の皆様からの記事の投稿をお待ちしています。図書や図書館に関する内容の記事なら、なんでもOKです。

詳しくは、原稿執筆の手引きをご覧ください。

<http://www.lib.shimane-u.ac.jp/0/shoun/>

島根大学附属図書館報
淞雲 第10号
平成21年12月発行

発行 島根大学附属図書館

本館 〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852) 32-6083 FAX 32-6089

医学分館 〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
TEL (0853) 20-2092 FAX 20-2095